



何よりも戦争のない平和な社会

今から半世紀ほど前のことですが、第4次中東戦争（イスラエル対エジプト・シリア）が勃発し、いわゆる第一次オイルショックと呼ばれる石油危機が起こりました。その影響で、日本ではトイレットペーパーの買い占め騒動や狂乱物価など、社会に大きな混乱が広がりました。

当時、私は高校3年生でした。就職先を探していた時期でしたが、地元企業の中には新規採用を停止するところも多く、困ったことを覚えています。

ガソリン価格は一気に倍近くまで跳ね上がり、「いつ買えなくなるか分からない」という不安から、多くの人が大量に買いだめしました。車に積み込んで持ち帰る人も多く、その結果、車両などが炎上する事故も報じられました。

当時を知る人の証言によると、車のトランクにポリタンクを5〜10個積み、灯油缶にガソリンを入れて運ぶ人もいたそうです。ガソリンスタンドには数百メートルもの行列ができるなど、かなり異様な光景が広がっていたといえます。

また、県内の中小企業、特に見附市の繊維メーカーは大きな打撃を受け、廃業やリストラが相次ぎました。

教科書にも載っている出来事ですが、今回の中東紛争が長引けば、また同じことが繰り返されるのでしょうか。一日も早く事態が収束することを願うばかりです。

相談員 H M



悩みに寄り添うことが大切

少子高齢化のこの頃です。相談も多種多様です。定年退職後、これから妻と旅行に出かけようと思ったのもつかの間、熟年離婚となるケース（子供たちは自立）や、男性の一人暮らしとなって寂しい、自分では食事が作れない、誰とも話す人がいなくて寂しいなどの電話もあります。一方で女性はこれまでの束縛、開放感のある生活でルンルンという人もいます。離婚のデメリットもお話ししますが、離婚後の生活の厳しさも覚悟の上での自由を求めたいということが勝るようです。

これからますます高齢の一人暮らしが増加傾向にあります。認知の問題なども絡み、どこに相談すればいいのか、どのようなケアサポートができるのかといった相談もあります。

また、遺産相続のことで、両親が判断能力のあるうちに遺言書作成、成年後見等々、色々なことで相談があります。相談員として寄り添った対応で、各行政との連絡を密にお願いし、温かい気持ちで対応できるように心がけたいと思っております。

ある事例ですが、電話をとるなり泣きながらどうしたら楽になりますか、お金がないです、主人は要介護2です。施設入所するお金もないです。私、疲れました等々。どのように答えたらいいのか対応に苦慮しました。ライフサポートセンターにいつでも電話ください。なかなか電話を切ろうとできませんでした。聞いてあげるだけでもいいのではないかとみんなで話し合っております。

相談員 M S



マンション、人づきあいは大切

東京都内では、新築マンションが一億円以上が当たり前だといふコースを聞いたことがあります。世の中それでも買う人がいるということも驚きです。普通の労働者にはなかなか手が届かないような気がします。収入が多くローンでも買える方には、高層マンションであれば、高層階から東京の夜景などが見えて奇麗なことでしょうが、一般の方は厳しいのではないのでしょうか。

私は2月末までマンションの理事長をしていたのですが、修繕積立金の不足問題で苦労しました。どのマンションでも年数経過とともに、配管の交換、エレベーターの修理、消雪パイプの修理等で、色々金がかかるものです。その費用の準備として修繕積立を貯めておかななくてはなりません。人間関係が薄いマンションでは、住人で作っている管理組合は人任せであり、大事な問題先送りにしたりします。それが大きな問題となるのです。

私のマンションでは修繕積立金を30年以上値上げしてこなかったため、このままでは大規模修繕のお金をはるかに足りなくなるということが明らかでした。歴代の理事長がこの問題に対し提案することを避け、住人の意識は「安くてもいいや」程度でした。理事の引継もいい加減であり真実がはつきりしません。私が理事会に入った時にその事実を初めて知って唖然としたものです。私も反省しました。いずれにせよこのままでは大変なことになると考え、値上げは必然だと理事会、総会での対応を図ってきました。

多くのマンションでは、設備の老朽化問題だけでなく、理事長の引き受け手がいない、理事会が機能しない、一人暮らしの高齢化、孤独死の問題が出てきています。日本の社会問題の縮図がマンション問題に表れているような気がします。だからこそ助け合いの気持ちが大切です。

相談員 TK

エンディングノートを実践

2月に1回、相談員で相談事例研修会を行っています。いつもは相談の具体的な事例に基づいて意見交換をするのですが、今回は相談員でエンディングノートを書いてみようということで、百円ショップでノートを購入してみんなで書いてみました。

人間はいつか死ぬわけですが、多くの方は本気で「死」ということを考えることはないかと思えます。しかし残された家族や親族は、死んだ後の処理を色々しなくてはなりません。葬儀の仕方、お墓、保険、家のことや、通帳や証書などのしまっておく場所など、残された家族が悩まなくてもいいように色々準備しておくことは大切なことです。同時に自分自身がどのような保険に入っていたのか、どのようなカードと契約していたのか、いままで適当に考えていたことを整理するよいきっかけにもなります。

最近悩ましいのは、パソコンやスマホなどに入っている記録、写真などが、パスワードなどをかけられて開けることができないという事例が多くあります。そのうちそのうちと言っている間に時間はどんどん流れます。

相談員の年齢も高齢化しており、自分や仲間の中でも終活に絡んだ話は増えてきています。今回の研修は実践も含め相談に役立つ研修となりました。高齢ではない方もこうした準備は大切なのではないかと考えます。自然災害の準備と同じく、備えあれば患いなしの思いでエンディングノートを書いてみてはいかがでしょうか？



終活

